

I. 不安全行動について

作業員の不安全行動が原因となって発生する災害が非常に多い。その中でも、新規入場者や、中小規模の業者の出入りの激しい現場での災害が多い。そして、その多くが“不安全行動だと思わずにやってしまう”。

不安全行動について大手建設現場の現場職員、協力業者作業員の面接調査結果をまとめました。

1. 不安全行動を引き起こす要因（回答の多い順）

- ①慌て・急いでいるとき
- ②作業場の安全設備に問題がある場合
- ③整理整頓がなされていない現場
- ④仕事で疲れているとき
- ⑤暑いとき
- ⑥雨が降っているとき
- ⑦規則通りでは作業がしにくい現場
- ⑧単調な作業が続くとき
- ⑨寒いとき

- ・作業員は上記の作業環境のときに、“手順を省略”したり、“近道行動”をとったり、「・・・だろう」という思い込みをしたり、“知らなかった、気付かなかった”、“知っていたが大丈夫だと思った”、“危険だとは思ったがやってしまった”、“「つい」「うっかり」”という行動をとることが多い。

2. 不安全行動を引き起こしやすい作業員

- ①意識の低い若手作業員
 - ②自意識過剰のベテラン作業員
 - ③緊急に応援で参加する作業員や単発的な業者（安全に対する意識も少なく、現場の規則もわからないため）
- ・新規入場時と仕事にすっかり慣れた頃に多く発生する

3. 事故を引き起こす要因（回答の多い順）

- ①作業工程に無理がある場合。
- ②作業場の安全設備に問題がある場合
- ③作業員に気のゆるみがある場合
- ④作業員が安全規則を守らない場合
- ⑤暗くて細部までよく見えないとき
- ⑥不安全行動がとがめられない現場
- ⑦いつもやっている作業だからと油断するとき
- ⑧整理整頓がなされていない現場
- ⑨行っている作業に対する知識や経験が不足しているとき
- ⑩元請け会社の安全に対する意識が低い現場
- ⑪作業員に思いこみや勘違いがある場合
- ⑫指示された作業方法が悪い場合
- ⑬新規入場者教育が十分でない現場
- ⑭不安全行動に対して厳しくない現場
- ⑮工期が優先されている現場

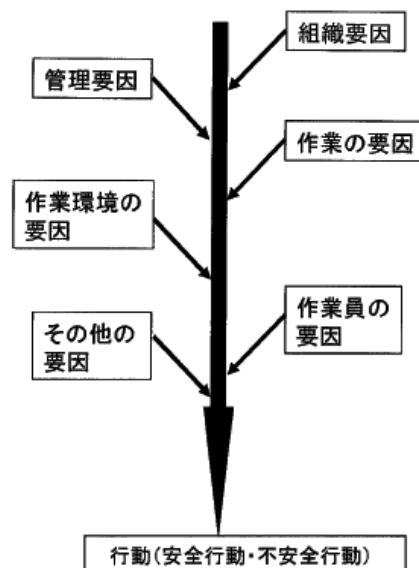
4. 不安全行動の防止に効果のある要因（回答の多い順）

- ①整理整頓の徹底
- ②KYなどの現場の安全活動
- ③作業安全設備の整備
- ④作業員同士の交流
- ⑤作業員の健康への配慮
- ⑥所長による頻繁な現場視察
- ⑦事故や労働災害の情報
- ⑧不安全行動をした人の公表

5. 事故及び不安全行動誘発要因の分類

ヒューマンエラーの分類	事故または不安全行動誘発要因
組織	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不安全行動がとがめられない、規則が守られていない現場 ・ 整理整頓がなされていない現場 ・ 元請け会社の安全に対する意識が低い現場
管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業場の安全設備に問題がある不安全状態の場合 ・ 作業工程に無理がある場合 ・ 新規入場者教育が十分でない現場
作業環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 暑いとき ・ 暗くて細部までよく見えないとき
作業員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業員に気のゆるみがある場合 ・ いつもやっている作業だからと油断するとき
作業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行っている作業に対する知識や経験が不足しているとき ・ 指示された作業方法が悪い場合
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 急いでいるとき

・ これらの1つだけが原因で不安全行動が発生することは少なく、実際の現場ではこれらが複雑に絡み合って、結果として不安全行動が生じてしまう。
 これら全体に影響を与えているのが、所長の現場管理に関する組織的な要因である。所長や現場職員が安全を軽視した行動をすれば、それはたちまち作業現場全体に伝染し、作業員も安全を軽視した行動、すなわち不安全行動を取り始めてしまう。



6. 不安全行動防止対策

- ①現場、現場事務所及び休憩所の整理整頓を徹底し、作業通路や作業床の確保をおこない、5Sを徹底する。発生した不要材は、その日の内に片付ける「くせ」をつける。
- ②作業安全設備は不安全な状態のまま放置しない。また、不安全行動を引き起こす可能性のある要因を作りださないような作業計画を作成すること。
- ③統括安全衛生責任者は毎日2回以上現場の巡回を行い、安全担当職員も時間を決め現場安全パトロールに集中してパトロールを行う。不安全行動及び不安全設備を発見した際は、その場で是正指導を行うこと。また、繰り返さく注意することが肝心です。注意をやめたり、不安全行動を見て見ぬ振りをすると、たちまち“これでも大丈夫だ”と勝手に思い込み不安全行動を行うことになり、災害の発生確率が増大します。
- ④職長は随時、自社の作業員の作業の進行状況、安全带及び保護帽の使用状況を監視し、不安全行動及び不安全設備を発見した際は、その場で是正指導、改善を行うこと。また、改善できない設備については、放置せずその場で元請けに連絡を行う。
- ⑤送出し教育の確認を行う。新規入場時教育は、現場特有の規則、現場の状況、安全通路の位置や場所、輻輳・混在する作業、緊急連絡先等について行う。現場の状況が説明した内容と相違しないように、日々変化する現場を十分把握して教育すること。

職場のKY活動 “マンネリ化” のチェックシート

出典：中災防

あなたのKY活動はマンネリ化していませんか？誰1人けがをしない、させないためには、管理監督者から作業員まで、職場のみんなが「よし、ヤロー」という活動でなければなりません。

KY活動について、経営者、管理者、監督者が理解し、率先垂範しなければ、やらされ感が生じてテーマや内容がいつもと同じになるなど、何のためのKYかわからなくなります。これをKYのマンネリ化と呼び「KYはやっているが、事故が減らない」「KYのテーマと同じ内容の事故が起きている」ということになってしまいます。



人間は誰でも、つい「うっかり」したり「ぼんやり」したり錯覚をします。横着して近道や省略もします。このような人間の行動特性が、誤った動作などの不安全行動（ヒューマンエラー）をもたらし、災害・事故の原因となります。

危険予知活動の目的は、自分が、仲間がケガをしないためにやるのです。そのためには、みんながホンネで話し合い、自らの問題だと自覚することが大切です。作業を始める前に「どんな危険が潜んでいるか」を話し合い、そして、対策を決め、一人ひとりの作業員が、指差し呼称で確認し、不安全行動による災害・事故を防止することです。そして管理監督者は、適切な作業指示を具体的にを行うとともに、この活動が適切に行われているかどうか強い関心を持ち、それを支援することが重要です。KY活動用紙に書くことが目的の危険予知活動は意味がありません。

平成25年新たな取り組みとして、危険予知活動の形骸化を防止するため、今年から安全管理室が危険予知講習会を現場で行い、北野建設社員と協力業者の職長・作業員に本来の危険予知活動のやり方を指導・教育することになりました。朝礼後、短時間で実施する予定としておりますので、ご協力をお願いします。

別紙【参考資料】の「職場のKY活動 “マンネリ化” のチェックシート」を参考にして下さい。

特に 2、3、6でそれぞれ半分以上の設問に「イエエ」のチェックが付いたり、全体で「イエエ」のチェックが多く付いている場合には、あなたの職場のKY活動はマンネリ化して、職場の安全衛生管理が形骸化しているおそれがあります。

職場のKY活動 “マンネリ化” のチェックシート

【参考資料】

1. みんなであいさつをしていますか

- ① はっきり聞こえる声でしている
- ② お互いの顔を見てしている

ハイ	イエ
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

2. 朝・終礼（ミーティング）のようすはどうか

- ① みんなが参加して毎日やっている
- ② 健康状態を問いかけて確かめて配慮している（目が赤いけどどうしたの？など）
- ③ リーダーの一方向的な伝達でなくメンバーも発言している
- ④ ヒヤリ・ハットを報告している
- ⑤ 指差し唱和やタッチ&コールなどで一体感を高めている

ハイ	イエ
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

3. 作業指示はどうしていますか

- ① 特に「なぜ」「何を」「どのように」を踏まえて指示している
- ② 「わからないことはないか？」と作業車の疑問点に答えている
- ③ わからないことがあれば指示者に遠慮なく質問させている
- ④ 指示受け者に5W1Hで復唱させて指示が誤りなく伝わったことを確かめている

ハイ	イエ
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

4. 毎日のミーティングにKYが組み込まれていますか

- ① 毎日KYをしている（たまにやるKYではない）
- ② 自分たちがケガをしないためにやることだと知っている
- ③ メンバー全員が発言している（リーダーが発言をうながしている）
- ④ メンバー全員の合意で進めている（リーダーが一方向的に決めていない）

ハイ	イエ
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

5. 作業にKYが活かされていますか

- ① KYが事故防止に役立っている（事故は減少している）
- ② KYで決めたチーム行動、指差し呼称を現場で実施している
- ③ 整理整頓を自ら行っている
- ④ 危ないことを見かけたら「危ない」と注意し合っている
- ⑤ 職場の問題をみんなで話し合っている

ハイ	イエ
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

6. 経営者、管理監督者はKY活動を支援していますか

- ① 職場のKY活動に関心を持っている
- ② 職場を毎日巡回している（管理監督者）
- ③ 作業者にねぎらいの声をかけている
- ④ 作業の危険や対策をたずねて危険について一緒に考えている（管理監督者）
- ⑤ 危険なようすを見て見ぬ振りをしないで注意している（管理監督者）

ハイ	イエ
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>